

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要	編者・著者名（共著 の場合のみ記入）	該当頁数
(著書) 1. 『三昧耶戒序／秘密三昧耶仏戒儀 ／平城天皇灌頂文／（弘仁）遺 誠』	共著	2003. 12	四季社	『秘密三昧耶仏戒儀』の現代語訳ならびに語注 を担当。	宮坂宥勝・大沢聖 寛・佐藤正伸・北川 真寛・佐々木大樹	
(学術論文) 1. 秘密莊嚴住心の存在論的構造につ いて	単著	1997. 3	密教文化 (198)	空海の十住心思想における秘密莊嚴住心におけ る身心の定義について、M・ハイデッガーの実 存論との対比を行い、その相違点を論じた。 (査読有り)		49-63
2. 『般若心経秘鍵』の撰述年代につ いて—諸開題に見られる経題解釈 法からの考察—	単著	2001. 2	高野山大学大学院 紀要 (5)	近来、空海最晩年の撰述と言われてきた『般若 心経秘鍵』の撰述年代について、その経題解釈 方法が、天長前半期で否定される方法であるこ とから、天長年間中頃までの撰述である可能性 を指摘した。(査読有り)		1-16
3. 平安時代初期における法身説法説 の受容	単著	2003. 3	日本印度學仏教学 研究 (51-2)	天長六本宗書に教えられる玄叡の『大乘三論大 義鈔』における法身説法批判を取り上げ、空海 当時の顕密対弁に対する反応を検証した。(査 読有り)		652-654
4. 『弁頭密二教論』巻上における 「或者」について	単著	2004. 12	高野山大学大学院 紀要 (8)	『弁頭密二教論』巻上で空海が批判した、『法 華経』教主を法身と解釈する「或者」につい て、それが伝教大師最澄を意識したものと考え られることを指摘した。(査読有り)		1-16
5. 『華嚴宗一乗開心論』における 「円円海」解釈—『弁頭密二教 論』との関連を通して—	単著	2004. 12	日本印度學仏教学 研究 (53-1)	天長六本宗書に教えられる普機の『華嚴宗一乗 開心論』における『釈摩訶衍論』解釈を、空海 の『弁頭密二教論』における解釈と比較し、空 海の顕密対弁に対する空海当時の反応を検討し た。(査読有り)		46-49
6. 『二教論』における『大智度論』 法性身説法について	単著	2005. 3	密教学研究 (37)	『二教論』で空海が用いた『大智度論』所説の 法性身説法について、空海当時の理解ならびに それに基づく批判を踏まえつつ、空海が『大乘 起信論』および『釈摩訶衍論』の始覺門から、 この法性身説法を解釈している可能性を指摘し た。(査読無し)		59-73
7. 『弁頭密二教論』における『楞伽 經』法仏説法の解釈について—特 に法相教学との対比を通じて—	単著	2005. 12	密教文化 (215)	空海が独自の解釈を行ったとされる『楞伽經』 所説の法仏説法について、それが空海当時の法 相教学では常識的に論じられている点、および その上で空海がその内容を大きく変容させてい る点を指摘した。(査読有り)		1-28
8. 「一乗経劫」について—即身成仏 思想に関する問題—	共著	2006. 2	高野山大学密教文化 研究所紀要 (19)	空海の提唱した即身成仏思想について、華嚴・ 天台の成仏論との関連を問題とした『宗義決 集』所収の論義である「一乗経劫」について、 天台宗における議論と共に検討を加えた。(査 読有り)	北川真寛	43-70
9. 『大日経開題』における「神変」 と「加持」について	単著	2010. 3	密教学研究 (42)	『大日経開題』における「神変」と「加持」に ついて、伝統教学における註釈を中心に検討し た。(査読無し)		135-150
10. 『御遺告』における順暁について	単著	2014. 3	空海研究 (1)	『御遺告』において惠果和尚の兄弟弟子と位置 付けられる順暁について、それが東密への蘇悉 地流入の影響によるものと推論し、検討を加え た。(査読有り)		59-85
11. 凡聖六大について	単著	2015. 2	高野山大学大学院 紀要 (14)	『宗義決集』所収の「凡聖六大」の論義を、 その他の論義書の論義とともに検討し、この論 義が「秘密灌頂」の口決と密接な関係を有し、 その文脈で論じられていることを指摘した。 (査読有り)		1-15
12. 空海の『大智度論』解釈について	単著	2015. 3	空海研究 (2)	『弁頭密二教論』で展開される『大智度論』を 用いた「二重二諦」説が、『金剛頂経』と『大 日経』における修道論的観点から導き出された 空海独自の解釈であることを指摘した。(査読 有り)		15-35

13.	覚海が飛んだ日	単著	2015. 3	密教学会報 (53)	高野山教学の祖ともされる覚海大徳为天狗となったという伝説について、覚海の伝記資料や未翻刻資料の教相史の資料を検討し、この伝説が江戸時代の初期まで確認できないことを指摘した。(査読無し)	297-319
14.	『弁頭密二教論』における「宗極」について	単著	2016. 3	空海研究 (3)	『弁頭密二教論』巻上で「宗極」とされる概念について、それが空海当時どのような意味で理解されていたのかについて検討し、それが『涅槃經』の「一切衆生悉有仏性」との関連で理解される概念であったことを指摘した。(査読有り)	77-96
15.	「六大四曼互為能生」について	単著	2016. 3	密教学研究 (48)	『宗義決撰集』所収の「六大四曼互為能生」をとりあげ、その内容が「灌頂の極位」の口決にかかわることを指摘した。(査読無し)	51-65
16.	「理法身說法」について	単著	2017. 2	高野山大学大学院紀要 (16)	『宗義決撰集』所収の「理法身說法(宥快)」をとりあげ、その内容が単なる教学上の議論ではなく、宝門相伝の「灌頂の極位」の口決との関係で発生した議論である可能性を指摘した。(査読有り)	1-14
17.	「等覚十地不能入室」考	単著	2017. 3	空海研究 (4)	『弁頭密二教論』巻上で述べられる「等覚十地不能入室」について、それが『不空表制集』を典拠とし、(灌頂)儀礼を表現したものであることを論じた。(査読有り)	86-110
18.	『宗義決撰集』における「遍計所執捨不捨」について	単著	2018. 2	高野山大学論叢 (53)	明和版『宗義決撰集』に追加された「遍計所執捨不捨(宥快)」の論義を取りあげ、明和版『宗義決撰集』の編者である快弁が、先行する慶安版『宗義決撰集』所収の「遍計所執捨不捨(快実)」が宝門相伝の内容と異なることから、宥快のものを追加した可能性があることを指摘した。	1-14
19.	「六大仏形」について	単著	2019. 3	密教学研究 (51)	『宗義決撰集』所収の「六大仏形(宥快)」をとりあげ、その内容が単なる教学上の議論ではなく、種三尊や灌頂の大事といった事相と関連することを指摘した。(査読有り)	67-82
20.	三種即身成仏について	単著	2020. 3	智山学報 (69)	『異本即身成仏義』に説かれる三種即身成仏のいずれが正意であるのか、という真言宗内の論義について、それが14世紀ころまでは見られないことを指摘した。またかかる議論の萌芽が、頼諭の著作に見られることを指摘した。(査読無し)	239-255
21.	〈真如〉と〈真言〉—『十住心論』巻第九・深秘釈段を中心に—	単著	2020. 3	高野山大学論叢 (55)	『異本即身成仏義』に説かれる三種即身成仏のいずれが正意であるのか、という真言宗内の論義について、それが14世紀ころまでは見られないことを指摘した。またかかる議論の萌芽が、頼諭の著作に見られることを指摘した。(査読有り)	239-255
22.	「十地仏果」について	単著	2020. 3	密教学会報 (57・58)	『宗義決撰集』所収の「十地仏果(宥快)」をとりあげ、而二門における行と仏果の関係について考察した。(査読有り)	1-18
23.	高野山の天狗伝説—金剛三昧院の毘張房—	単著	2021. 3	密教学会報 (59)	高野山金剛三昧院に伝わる天狗「毘張房」の伝説を取り上げ、それが江戸時代前半に小田原来迎院から移入したものであることを指摘した。(査読有り)	51-68
24.	『杣保隠通鈔』における理具正意説について—「三種即身成仏正意」の諸問題—	単著	2022. 3	高野山大学論叢 (57)	三種即身成仏をめぐる議論の内、『杣保隠通鈔』で印融が主張した「理具正意説」を取り上げ、それが印融自身が継承した西院流の口決に基づく主張であることを指摘した。(査読有り)	1-10
25.	高野山の天狗伝説—巖山の妙音房—	単著	2022. 3	高野山大学図書館紀要 (5/6)	巖山弁財天社に伝わる天狗「妙音房」を取り上げ、それが「高野両先達」としての行人方と天河弁財天社との関係から言われるようになったのではないかと指摘した。(査読無し)	1-16

(その他)							
1. 1. 真言密教における「神変」 —衆生救済と即身成仏—	単著	2016. 2	京都・宗教論叢 (10)	チェーンレクチャーテーマ「人間にとって救済とは何か」に基づく講義の概要。大乘仏教の「神変」思想が、救済論と密接な関わりを有することを確認し、その思想が空海の即身成仏思想にまで継続することを示した。			43-45
2. 金剛三昧院本『御手印縁起略解』 について	共著	2016. 3	高野山大学密教文化 研究所紀要 (29)	高野山大学図書館蔵・金剛三昧院寄託の快弁撰『御手印縁起略解』は、その存在が指摘されていたものの、翻刻されておらず未見の資料であった。今回その翻刻調査を通して、金剛三昧院本の『略解』が快弁自身の原本である可能性を指摘した。解題部分を担当。(査読有り)	森本一彦 川染龍哉 木下智雄 榊原啓優		1-49
3. 『天正高野治乱記』六本対観表	共著	2017. 2	高野山大学論叢 (52)	織田信長による高野山攻めを、高野山側の視点から描いた軍記物語である『天正高野治乱記』を通して、近世高野山における宗教意識・歴史認識を知るための基礎作業として、写本六本を対観した。	榊原啓優 木下智雄 高柳健太郎 浜畑圭吾		31-59
4 『秘蔵宝鑰』の研究—第九住心—	単著	2018. 3	高野山大学密教文化 研究所紀要 別冊	弘法大師著作研究会で開催した『秘蔵宝鑰』訳注研究の内、第九極無自性心部分を担当した。			41-89
5 『声字実相義』の研究	共著	2020. 3	高野山大学密教文化 研究所紀要 別冊	弘法大師著作研究会で開催した『声字実相義』訳注研究の内、「内外依正具」以下の箇所を担当した。	松長潤慶 米田弘仁		124-164
6 『吽字義』の研究	共著	2021. 3	高野山大学密教文化 研究所紀要 別冊	弘法大師著作研究会で開催した『吽字義』訳注研究の内、「吽字の字相」および「汗字の実義」(一部)の箇所を担当した。	北川真寛 川崎一洋		5-29 68-79
7 『弁頭密二教論』の研究	共著	2022. 3	高野山大学密教文化 研究所紀要 別冊	弘法大師著作研究会で開催した『弁頭密二教論』の訳注研究の内、巻上では序論～華嚴章疏による果分不説と、『釈論』による果分可説～密教の即身成仏を、巻下では六度経による密法殊勝と『智度論』による儀相～顕密の意義分際 の箇所を担当した。	櫻木潤 那須真裕美 徳重弘志		